

2010年2月

2009年 東京大学教養学部 冬学期
全学ゼミナール「地球温暖化と経済学」講義感想文
(履修登録者 12名、合格者 11名、感想提出者 11名)

山口 光恒

1, 文科I類 1年

この、「地球温暖化と経済学」の講義は2学期間にまたがるものであり、他のどの授業よりも、一つのテーマを深く知ることが出来たように思う。山口教授に教えていただいたことに比べ、私が理解し自身で深めることの出来た内容はそれほど多くないが、そこからえたものは大きかったように思う。また、通常の講義に加えて、ディベートの時間からも得るものはおおきかった。普段聞いていて、理解したつもりになっていた内容の奥深さをあらためて知ったり、自身の話す技術の乏しさを実感したりする本当によい機会になった。

この授業は少人数制であったため、先生や、おなじゼミの仲間と話をする機会がおおくえられ、この授業の最終回に、なんだか終わってしまうのがもったいない気持ちになったことが強く印象に残っている。

この授業を受け、私は自分の興味のある分野が何なのかを明確に知ることが出来た。それは、環境と経済とエネルギーの分野である。この3つの関わりを、国際的にも、国内的にも見せていただいたことは、今後の私の学業や進路決定にとっても大きな意味を持つに違いない。本当にこのゼミに参加できたことを感謝している。

2, 文科I類 1年

授業の最後にあったディベートとこの最後のレポートともに自分の力のなさを実感する形となり今は悔しい思いですが、1年前の自分よりは成長していると感じています。

1年を通して先生には温暖化の話だけでなく広くいろいろな話をさせていただきましたが、一番印象に残っているのは、最後のディベートの授業の時の、「一度も挫折を経験しない人はいない、大事なものはあきらめずに頑張り続けることだ」という内容の話でした。

1年を通して、しっかり予習や復習をした時があまりなく、この授業にかける意気込みも足りなかったと感じていますが、それでも1年間授業に出続けてよかったと今思っています。これから、あきらめずにいろいろなことに挑戦し、それを通して1つ1つ自分をつくっていきたいと思います。

1年間本当にありがとうございました。

3, 文科II類 1年

後期は時事的内容に踏み込み、直近の新聞記事への理解が進んだことが大変興味深かった。一方で、ディベートなどを通して、自分の主張と照らし合わせて他人の意見を取捨選択してしまう自分の心情にも気付き、同じ情報を得るにしても、客観的に把握することがどれだけ重要だが難しいことなのかを知った。また、経済学には様々な異なる前提条件を含むいろいろなモデルがあってそれぞれが解を示しているけれど、その中から一つを選択するのは結局誰かの恣意だということ学んだ。経済に関しては、これから学ばなければならないことがたくさんあるが、それを学んでいく課程で、このゼミで習得したことをときどき思い返したいと思う。

4, 文科Ⅱ類 1年

一年間、先生の授業を受けさせていただき、ありがとうございます。夏学期に続き、地球温暖化と経済学における専門知識を深く理解することができました。また、授業に関するものだけではなく、読書までも勧めてくれました。先生の授業を受けることを通じ、物事に感じて悟ることができました。

5, 文科Ⅱ類 1年

1年間いろいろなことが学べたと思う。一番大きいのは、地球温暖化問題に対して自分から積極的に調べるようになったことだと思う。その過程で新聞は案外当てにならないこと、厳密に議論を進めるには多くは英語で書かれた原典に当たらなければならないこと、一方で各国のデータ分析や削減目標などには政治的・外交的意図が込められていること、などがより身にしみてわかるようになった。

また私にとって授業は先生のものの方の考え方の一端がうかがえる時が一番おもしろく、刺激的だった。ロシアの話、政府の政策に対する見解（半分は反対論）、国際会議での言葉の重要性、ディベートに対する姿勢などである。

1年間ありがとうございました。

6, 文科Ⅱ類 2年

この授業の一年間を通して、環境問題に対する考え方が変わったし、特に地球温暖化に関する知識もすごく増えました。環境問題についてもっと興味を持ち、もっと考えてみたい、もっと知りたいと思わせてくれる授業でした。この授業を取ることができて、すごくよかったですと思います。

ただし、入門の授業であるために授業は講義の形式がほとんどで、みんなと交流するきっかけがありませんでした。ゼミを受けているみんなとあまり交流がなかったのが残念で

した。また、お勧めの環境（あるいは他の分野）に関する本、参考文献などをもっともつと紹介していただくと、生徒が興味のあるジャンルの文献を読むきっかけになると思います。

非常にためになった授業でした。本当にありがとうございました。

7, 文科Ⅲ類 2年

先学期に引き続き、今学期もご指導大変ありがとうございました。半期で終わってしまう授業がほとんどである中、一年間かけて「地球温暖化と経済学」というテーマで様々なことを学べたのは、本当に良い経験でした。

この一年間でたくさんのお話を教えていただきましたが、まだまだ十分に身に付いていない部分も多いと思うので、この春休みにじっくり復習したいと思います。特に経済学が深く関わる部分は難しかったですが、重要なところでもあるので、よく勉強したいと思います。

授業では、講義の内容はもちろんですが、その前後にして下さる、国際会議のタイムリーなお話や、今後私たちが社会に出て必要となることについてのお話なども、楽しみでした。そういった意味でも、色々なことを学ぶことのできた授業だったと思います。

冬学期にはディベートを行いました。自分では分かっているつもりのも、いざ議論の際にすぐに出てこなかったり、うまく説明ができなかったりして、十分に理解できていない部分があることがよく分かりました。また、国立環境研究所等のモデル分析がどのような手法で行われているかなど、ディベート・レポート提出までに読み切れなかった資料についても、春休みを利用してよく読んでみたいと思います。

それでは、この一年間、本当にありがとうございました。

8, 理科Ⅰ類 1年

先生の講義を一年間受けさせていただいたおかげで、なんとなく環境問題に興味があつてニュースを気にしていた程度から地球温暖化の現状やその問題点を具体的に知り、何か情報を得たときに少しではあるけれど自分で考えられるというレベルまで大きく成長できた気がします。先生の講義はかなり難しいところもあつてついていくので精いっぱいだったけれども毎回何か得られるものがあつてとても興味深かったです。特に先生が重要な会議に出たときの様子などを話してくださったときは日本の温暖化問題の最先端に触れられる感じがしてとてもうれしかったです。

夏学期から自分の課題であつた自分の考えをはっきり表現するという事は結局ディベートをしても克服できなかったのですがその原因は知識が完全に自分の一部となっていなかったためだということがわかりました。先生が「ディベートのときは原稿を見ながらたど

たどしく答えてはだめだ。」とおっしゃっていましたが自分はさらにその手前の段階なんだなと思ってもっともっと勉強しようと思いました。

先生には地球温暖化のことだけでなく人としての教訓や心構えなど貴重なことをたくさんおしえていただきました。この一年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

9, 理科Ⅱ類 1年

この1年間の授業は、刺激的でとても面白く、終わってしまうのを残念に思います。ディベートは、自分の意見を人に納得してもらえるようにまとめられなかったり、なかなかお互いの意見がかみ合っていかなかったり、考えさせられることが多くありました。先生の講義は難しく、政府などで実際議論されている資料を理解できるようになるまでにはまだまだ道のりが長そうですが、実際に政治の意思決定がどのような形で行われているかということを知るのが新鮮でした。また、情報をどこから取ってくるか、新聞などの報道をそのまま信じるのではなく、そのもととなっている研究などを自分が直接見て判断することが大切で、その調べ方もこの授業を通して鍛えられました。まだまだ力不足で情けないのですが、これから地球温暖化問題や経済学をやるかどうかにかかわりなく、自分がどうやって勉強していくかについて、学ぶことができた貴重な授業でした。忙しいなか都合をつけてくださった食事会もまだまだ何回もやりたかったと思う気持ちでいっぱいです。時間のある学生の時間を無為に過ごすことなく、自分から勉強して、多くのことを学んでいきたいです。本当にありがとうございました。

10, 理科Ⅱ類 2年

夏学期、つまり前半の環境経済学のゼミを経て、後半はより詳しいディスカッションなどが出来るようになった。そこで、座学で学んでいること、普段考えていることをアウトプットするのがいかに難しいかが分かりました。例えば、授業の資料に使われている数値なども、議論の中で示すと、本当に詳しく読み込んでいない限り、どのような場合にこのような数値が出るのか、といった突っ込みに対応出来なくなる。資料を使うにも、一つ意見を言うにも、いかに詳しく読んでおき自分の意見をまとめておくのが大事だと痛感出来た。もちろんディスカッションだけではない。このゼミでは、理論にとどまらず、実際の国際交渉での提案内容や、生の様子まで聴くことが出来た。夏学期に理論の土台をかため、冬学期で実践と結び付けて考え、最終的にディスカッションという形でアウトプット出来るようになった。この1年で得た収穫はそういう意味で大きかった。また、環境経済学についてもう少し知るとともに、いつか自分も国際交渉の場に立ってみたいと思えた講義だった。

11, 理科Ⅱ類 2年

一年間通しての授業で一番感じたことは、物事を考える視野が広がった、ということだ。先生は政府の委員としても活躍されていて、現場の話などはとても興味深く聞いた。普段自分がニュースなどを聞いているときはアナウンサーの言った通りに解釈するが、その裏には実は様々なことがあり、ただ報道を鵜呑みにしてはいけなと感じた。今までは言葉の意味でも、「合意」と「認識の共有」を同じニュアンスで捉えていたが、後者はほぼ実効性のないものであるにも関わらずこの二つを混同していた。外交文書では、例えば stabilize と return では全く合意の内容が違うことなどを学べたので、今後は一言一句に目を向けるようにしたい。ディベートでは思うように言い返せないことが多く、もどかしい思いをした。相手の主張に納得してしまったり、違和感を感じても具体的にどこを反論すればよいか分からなかったりするの反省である。常に批判的に相手の主張を聞き、問題点をつくといったことや、自分の得意分野に議論を進めることなどを心がけたい。ディベートのテクニックなどを百戦錬磨の山口先生からさらに教われればと思った。授業では積極的な発言を夏学期からの課題としていたが、大きくは改善できなかったのが残念である。せっかく少人数のゼミ形式なのであるから、間違いを恐れずに発言していきたいと思った。学期中に COP15 もあり、会議に高い関心を持つことができたとともに、先生からの話で理解が深まった。一年間の授業を通して、新人の民主党議員よりはよほど温暖化問題に詳しくなれたのではと感じる。一年間ありがとうございました。